M－NEWS
ミオ戦略会議室（院内発行情報紙）
医療法人 社団 ミオ・ファティリティ・クリニック
〒683-0008 鳥取県米子市車尾南2丁目1番1号 TEL.0859-35-5211 FAX.0859-35-5213
2021.7.27
219
TOKYO 2020

オリンピックとパンデミック(1)
スペイン風邪の終息直後に行われた1920年アントワープ大会

はじめに

本来2020年7月24日に開催される予定だった「東京2020オリンピック・パラリンピック」は1年間の延期になり、今まさに開催されています。

2019年の暮、中国・武漢市が原因不明のウイルス性肺炎の発症を公表し、翌年の1月には全世界に「新型コロナウイルス」と名前を変えて、感染が拡大していきました。

この新型コロナウイルスはあっという間に世界中に広がり、世界中で人流が止まり、大きなイベントの中止が相次ぎました。世界が閉塞状況に陥るなか、世界保健機関（WHO）が3月12日に「パンデミック（世界的流行）」を宣言、「東京2020オリンピック・パラリンピック」は「開催」から「延期」になったのです。

3月24日、当時の安倍晋三首相は国際オリンピック委員会（IOC）のトーマス・バッハ会長と長時間の電話会談を行い、オリンピック開催は1年延期で合意しました。1週間後、「TOKYO2020」の名称は残したまま、オリンピックは2021年7月23日、パラリンピックは同年8月24日開会式と決まり、124年に及ぶオリンピックの歴史のなかで初めて開催延期が決定したのです。

100年前の1920年アントワープ大会

ちょうど100年前、1920年に開催された第7回アントワープ大会は、「人類最悪のパンデミック」と称される「スペイン風邪」の世界的な蔓延により、今日と同じような感染状況にありました。

スペイン風邪は第一次世界大戦下の1918年3月、米国カンザス州の陸軍基地で発症したとされ、アメリカ軍の欧州戦線投入により瞬く間にヨーロッパ全土に拡大しました。南北アメリカは当然、北アフリカから中東、革命進行中のロシアや中国、インド、そして日本に広がり、オーストラリアにまで感染は拡大ました。スペイン風邪の第1波は比較的穏やかでしたが、夏から秋にかけた第2波で死者が急増し、1919年上半期まで続きました。

スペイン風邪の歴史的な記録によれば、当時の世界の人口の約3割にあたる5億人が感染し、実に4500万人もの死者が出たとされています。ほぼ半年遅れでスペイン風邪の感染の波を迎えた日本では1921年まで感染が続き、人口の約半分にあたる2400万人が感染し、39万人が亡くなったと推計されています。

アントワープ大会開催前後のスペイン風邪

新型コロナウイルスの世界的な感染者数については、米国ジョンズホプキンス大学の集計が連日、公表されており、今年の7月18日には感染者数は1億8800万人を突破、死者も405万人を超え、今も増加傾向です。スペイン風邪の当時との社会環境の違い、新型コロナウイルスの感染拡大が終息していない状況では単純に比較できませんが、改めてスペイン風邪がいかに猛威をふるったか、想像に難くありません。ちなみに、その後の研究からスペイン風邪は「H1N1亜型インフルエンザウイルス」によるものと判明しています。

米国発症にも関わらず「スペイン風邪」と呼ばれるのは、第1次大戦下で参戦国が一斉にこの流行したスペイン風邪の情報を機密扱いとしたことに対し、中立国スペインの状況ばかりが大きく報じられたことによるものとされています。この歴史的教訓から、今日、中国がことさら「武漢発症」に敏感な態度を取り続ける理由にもなっています。

また、当時のスペイン風邪への対策として講じられていた予防策は「患者の隔離」「密集地の回避」「マスクの着用」さらには「休校」や「イベントの中止」など、現在と何ら変わるところはありません。

第7回アントワープ大会が開催された理由

それでは、どうしてスペイン風邪がヨーロッパで猛威を振るっている中、ベルギーのアントワープで第7回オリンピック競技大会の開催が可能になったのでしょうか？

要因のひとつには1920年までにヨーロッパでの感染が収束していたことが挙げられます。全世界でのスペイン風邪の収束はみられなくとも、欧米で収まっていれば、それでよかったという風潮があったのです。今日と異なり、オリンピックは世界中のものではなく、先進国である「欧米のもの」といわれた時代だったのです。

また、ベルギーは奇跡的にスペイン風邪の感染拡大を免れた国だったとされています。当時の『流行性感冒「スペイン風邪」大流行の記録』には、「白耳義（ベルギー）」のスペイン風邪の独立した記述はなく、わずかに「独逸（ドイツ）」の記載の中に「白」として書かれているにとどまっています。フランス、スペイン、イタリア、オランダ、ポルトガル、そして英国、米国など世界の国々を挙げて言及されているなかで、ベルギーの記載がみられないのはベルギーにスペイン風邪の大きな影響がなかったからであると考えられています（東洋文庫所蔵の内務省衛生局編）。

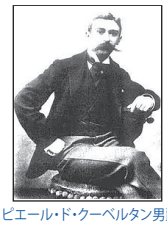
第一次世界大戦とクーベルタンの光と影

第一次世界大戦は1914年7月28日、当時のオーストリア領サラエボ（現・ボスニア・ヘルツェゴビナ）でオーストリア＝ハンガリー帝国の皇位継承者であるオーストリア大公フランツ・フェルディナントと妻のゾフィー・ホクテがボスニア人の青年ガブリロ・プリンツェプに暗殺されたことが発端です。

この事件を契機にオーストリア=ハンガリー帝国が宣戦布告すると、セルビアの後ろ盾であるロシアが総動員令を出して対峙し、その後オーストリア=ハンガリー帝国側に同盟を結ぶドイツがつき、一方ロシアにはフランス、英国が加勢し一気に戦火が広がっていきました。総勢25カ国が参戦するなかでも、ベルギーは永世中立国としての立場を貫いていました。しかしそれを無視したドイツの侵攻によって占領下におかれ、国土を蹂躙されるなど大きな損害を被りました。

フェルディナント大公と妻ゾフィー、家族

フェルディナント大公と妻ゾフィー、この直後に暗殺される


ピエール・ド・クーベルタン男爵

1918年11月11日、長きに及んだ第一次世界大戦が終わりました。この第一次世界大戦中、1916年に予定されていたドイツのベルリンでの第6回オリンピックが中止されました。そうした中でこのアントワープという地にオリンピック開催の道を開いたのはIOC会長に復帰したピエール・ド・クーベルタンのオリンピック開催への強い意向があったからと言われています。

世界平和を希求する「オリンピック・ムーブメント」を提唱してきたクーベルタンは第一次世界大戦中の1915年4月、それまでパリの自宅に置いていたIOC本部を、第一次世界大戦の戦火を避けるためにスイスのローザンヌに移します。その翌1916年に、彼はまた突如として信頼するIOC委員、ゴドフロワ・ド・ブロネを会長代理に指名し、オリンピックに関わる活動を休止してしまいます。そして自ら志願し、フランス軍に従軍、ドイツとの戦いに参加しました。1863年生まれで50歳を超えた彼が前線に送られることはありませんでしたが、戦闘意欲高揚のために全国の学校などを巡り、いわゆる銃後教育を精力的に行いました。

「IOCは軍人に率いられるべきではない」とブロネに会長代理を託した思いは理解できるものの、なぜ50歳を過ぎてそのような行動に出たのかは不明です。祖国の危機に立ちあがる貴族としての矜持なのか、反戦思想と指弾されて著書が発禁処分になったことへの抵抗か、それともベルリン大会開催によりドイツの好戦的傾向を抑制するねらい、つまり「オリンピックによる平和」が断たれた絶望だったのか、彼の本当の意図は不明です。

第一次世界大戦が終わった1919年3月、クーベルタンは何事もなかったかのように会長職に戻り、第一次世界大戦の終戦と同時に活動を再開します。そしてクーベルタンはベルギー出身のIOC委員で後の会長、アンリ・ド・バイエ＝ラツールを訪れ、ベルギー政府に第7回大会の開催を持ち掛けています。そして1919年4月、ローザンヌで開いたIOC総会でアントワープを1920年大会開催都市に選出したのでした。